

令和8年度 播磨町中学校部活動地域展開イメージ図

移行の背景(現状と課題)

- 播磨中学校(12部)、播磨南中学校(9部)に計644人(全体の64.9% 参考:文化部19.9%)が参加(R5.4現在)
- 競技数の少なさ
- 競技経験のない教師による指導が増加
- 働き方改革を推進しているなか、教師にとって大きな業務負担

◆活動の質や量の確保の点から
持続可能が困難

めざす姿

(今後の部活動の在り方)

中学生にとって、ふさわしい(持続可能な)
スポーツ・文化・芸術環境の実現

部活動の運営主体を学校から
地域(「NPO法人スポーツクラブ21はりま」)へ移行

中学生にとどまらず
播磨町のスポーツ・文化・芸術環境の
さらなる充実

新たなスポーツ・文化・芸術 環境の構築に向けた具体的対応策

○運営団体である「スポクラはりま」の再整備による機能充実

- 【拡充】・信頼性の向上及び財源確保の推進
- 【拡充】・組織再編 → 一般財団法人 → 公益財団法人格の取得(R10)
- 【新規】・多様なスポーツ体験の機会の提供
- 【新規】・高校及び特別支援学校との連携促進
- 【新規】・ジュニアからシニアまでの多世代での取組
- 【新規】・不登校や障害のある子供たちの地域の学びの場としての役割

○スポーツ指導者の質の保障及び量の確保方策の確立

- 【拡充】・質の保障 ← 認証地域クラブ制度の導入
- 【拡充】・量の確保 ← 認証地域クラブ制度の導入
- 【新規】・アスリート人材等の活用(スポーツ系の大学生、パラアスリート等)

○学校を含めた町立スポーツ施設の確保方策の確立

- 【終了】・利用ルールの改正
- 【終了】・施設の利用予約システムの一元管理化
- 【継続】・学校施設の有効活用の促進
- 【拡充】・地域スポーツの活動の拠点整備
(学校体育・教育施設の拠点化や社会体育・社会教育施設との一体化)

○大会への参加の在り方を検討し関係機関へ要請

- 【継続】・中体連や競技団体が主催する大会の参加形態を模索
- 【継続】・指導者の資格要件緩和及び資格取得の猶予期間の設定

○安定した財源確保の体制構築

- 【継続】・適切な会費設定の検討
- 【継続】・安心した活動ができる保険への加入
- 【新規】・民間資金の活用(企業版ふるさと納税・クラウドファンディング等)

○安全確保の体制構築

- 【継続】・保険の在り方検討
- 【新規】・トレーナー(非常勤)の配置による安全体制の構築

○教職員の諸制度の効果的な活用

- 【継続】・次期指導要領改訂時に学校の部活動の在り方を明示予定
- 【継続】・教職員の兼職兼業許可申請を促進

○保護者等の啓発と理解促進

- 【拡充】・きめ細やかな情報発信
- 【拡充】・受益者負担等への理解
- 【新規】・効率的、効果的な情報発信

中学生にとって、
持続可能で適切な
クラブライフを享受できる環境整備

R8・9・10
重点目標

9年間を見据えた
系統的指導体制の確立

◀認証地域クラブ制度導入により実施主体の機能強化▶

資格取得助成制度の充実

競技別指導体制等の充実

運営団体・実施主体の
機能強化

地域総がかり
での推進
(参画と協働)

播磨町における
新たなスポーツ・文化芸術環境の再構築

生涯学習社会
生涯スポーツ社会
の実現